

病院の実力「肝臓がん」

医療機関別2021年治療実績

(読売新聞調べ)

医療機関名	切除手術		焼灼療法 (人)	塞栓療法 (人)	免疫治療薬と分子標的薬の併用療法 (人)
	総数 (人)	うち腹腔鏡 (人)			
埼玉					
埼玉医大国際医療セ	112	58	0	16	0
県立がんセ	88	38	0	23	21
埼玉医大総合医療セ	57	18	1	85	26
川口市立医療セ	42	19	3	10	4
上尾中央総合	37	36	28	10	24
東大宮メディカルセ	29	21	18	21	6
独協医大埼玉医療セ	26	6	9	27	10
さいたま赤十字	23	14	—	—	—
防衛医大	21	7	5	45	21
埼玉協同	20	7	1	31	1
埼玉医大	—	—	61	103	56
深谷赤十字	8	0	0	11	6
戸田中央総合	6	4	6	15	17
さいたま市民医療セ	2	0	1	12	2
越谷市立	1	0	0	0	0
春日部市立医療セ	1	0	0	0	2
秩父	0	0	6	17	0
新座志木中央総合	0	0	5	17	5
埼玉石心会	0	0	0	4	3
群馬					
伊勢崎市民	12	0	49	83	13
桐生厚生総合	7	0	33	48	17
済生会前橋	6	0	128	24	30
国・高崎総合医療セ	5	0	41	34	28
公立富岡総合	1	0	5	23	2
太田記念	1	0	0	1	0
県立がんセ	0	0	1	0	0
公立藤岡総合	0	0	0	0	1
千葉					
千葉大	53	8	139	75	90
国立がん研究セ東	48	42	52	88	54
慈恵医大柏	41	25	4	1	0
新松戸中央総合	28	3	31	48	26
おおたかの森	25	0	18	41	2
順天堂大浦安	20	1	0	0	1
県がんセ	19	0	0	11	7
亀田総合	17	13	12	52	2
東京歯科大市川総合	17	6	10	12	6
千葉西総合	15	14	1	21	7
船橋市立医療セ	14	9	10	15	6
国保君津中央	12	4	27	28	15
成田赤十字	12	2	0	0	2
国保旭中央	11	1	73	43	15
千葉徳洲会	10	7	4	19	4
キッコーマン総合	4	0	6	8	3
聖隷佐倉市民	4	0	1	10	7
新東京	2	2	0	0	0
千葉市立海浜	0	0	7	8	0

「国・」は国立病院機構、「セ」はセンター、「—」は無回答または不明

病院の実力

～埼玉編 173

肝臓がん

今回は、「肝臓がん」を取り上げる。一覧表には2021年に手術などの治療を受けた人数を掲載した。治療は、手術のほか、内科的な治療がある。がんの位置、大きさや個数、肝機能などで

脂肪肝から進行注意を

選ぶ。

手術は、がんとその周囲を切除する。開腹手術と腹腔鏡手術がある。腹腔鏡手術は、おなかに入れて小さな穴から器具を入れて、操作する。患者の心身への負担が比較的小さいが、肝臓には多くの血管が走っている。手術は、出血のリスクが

大きく、難易度が高い。経験豊富な医療機関で受けたい。手術と並び、根治が期待できるのは焼灼療法だ。肝臓に電極針を刺して、ラジオ波などでがんを焼く。持病のある高齢者や肝機能が悪い人も実施できる。

がんが多発し、手術や焼灼療法が難しい場合は、肝動脈スチン(同)の併用療法は、

塞栓療法を行う。がん細胞に栄養を運ぶ血管をふさぎ、がんを死滅させる。

転移がみられたら、薬物治療が柱となる。この10年余りで新薬が次々に登場した。2020年に公的保険が適用された免疫治療薬テセントリク(商品名)と分子標的薬アバ

スチン(同)の併用療法は、

従来の治療より効果が高く、薬物療法の第1選択になっている。

肝臓がんの原因の大半はC型、B型などのウイルスによる肝炎だが、画期的な治療が普及し、がんに進行する人は減っている。代わりに脂肪肝からの発がんの割合が増加しており、注意が必要だ。

全国の調査結果は19日の「安心設計面」に掲載しました。